◇ 同好会「第７８回・歴史を歩く」１月 19 日（木）晴れ　参加者 16 名

～トルコ・イスラム文化の魅力に触れてきました。～

代々木上原から歩くこと５分。葉の落ちた街路樹を通して、異彩を放って見えるのが東京ジャーミイ。オスマントルコ様式の建物で、ドーム型のモスク、天高くそびえ立つミナレット（尖塔）がイスラム文化を象徴しています。ホールには、コーランの１節を記したアラビア文字のカリグラフィー（アラビア習字）をはじめ、トルコ・イスラム芸術を代表する様々な工芸品が飾られ、異国情緒に溢れていました。ハラールショップでは、ハラール食品（イスラム教で食べることを許されている食品）や、日本ではあまり見られないカラフルなお土産などが並べられていました。

ガイドのムスリム（イスラム教徒）山下さんのお話。

のっけから、「ブラタモリ」よろしく、「なぜここに、モスクが建てられたのか？」のクエスチョン！ 1917 年のロシア革命で、迫害を受けたイスラム教徒が安住の地を求めて、シベリア、満洲を経て日本へと移動。日本政府の協力で、彼らの悲願であり、心の拠り所であるモスクを 1938 年に建造。

世界史を紐解いての説明は、時間があれば 1～2 時間続きそうでした。（イスラムの基本の「き」から説明をと、お願いしたはずでしたが.）

ラマダーンについては、日の出から日没まで水も食事も取らないが、日が沈むと同時に、水を飲むと大変美味しい。食事も家族や地域の人々と分かち合いながら食べると、とても楽しい。ラマダーンを通して、忍耐、分かち合う心、感謝する気持ちなどを学ぶということでした。コーランは、言わば旅の「ガイドブック」のようなもの。人生の案内書とのこと。なるほど、納得。

アザーンが聞こえ、今から礼拝が始まることを告げています。ムスリムは、顔、手、足を浄めてから礼拝します。私たち女性は頭にスカーフを被り、見学させていただきました。「わあ～、美しい！」と、思わず声をあげたくなるほど素晴らしい。キリスト教会とは異なり、エキゾチックで華麗。白い壁に映える繊細な幾何学模様、トルコブルーの装飾タイル、流麗なカリグラフィー。内装の美しさはアジア１だそうです。床には鮮やかな青い絨毯が敷き詰められ、メッカの方向に向かって、横に１列に並んで礼拝します。朗々とした独特の朗誦に合わせて、立礼したり、跪いて頭を下げたりして祈りを捧げています。見学している私たちは、物珍しさと同時に、厳粛な気持ちにもなりました。

ひときわ存在感を放っている東京ジャーミイに別れを告げ、昼食の「アンカラ」へと、新宿３丁目へ移動。世界三大料理のひとつと言われているトルコ料理。フレンチや中華は日本人に馴染んでいますが、トルコ料理はどんな料理？今日の日替わりランチは、なすとひき肉の炒め物（トルコ料理に欠かせないトマトペーストをふんだんに使っていて、パプリカや玉ねぎも入っている）、ひよこ豆のスープ、サラダ、　パン、デザート（クスクスが入っていて、芋羊羹に似ている）、チャイ（紅茶）、料理はもっとスパイシーだったり、香料が強いかと思いましたが、そんなことはなく、美味しく頂きました。トルコビールも楽しめたそうです。1000 円の日替わりランチでしたが、トルコ料理の一端を垣間見ることができました。ごちそうさま。今日は１日、異次元の世界に踏み込んだような気分でしたが、いかがでしたでしょうか。楽しんでいただけましたか。ご参加いただきありがとうございました。

＜報告：関根悦子＞